



受付第05A2380号
受付日：平成17年11月8日

品質性能試験報告書

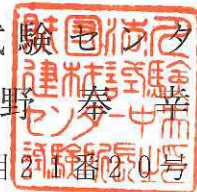
依頼者 株式会社 カ ナ イ
常務取締役 並 木 高 様
埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成18年 1月24日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝 野 幸 一
埼玉県草加市稲荷5丁目



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 カ ナ イ						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：C-HD1520 用途：柱脚の仕口に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅40mm，長さ172mm，厚さ4.5mmの鋼板添え板にコの字形に折り曲げた厚さ4.5mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材質：SPHC（JIS G 3131） 表面処理：ダクロタイズド処理 取付位置：たて枠下端から高さ90mmの位置に金物下部を合わせて設置</p> <p>2. 接合具 木ねじ：3#角ビット鍋スクリューφ6.0×90，5本使用 長さ：90mm，ねじ部の長さ：75mm，ねじ部の外径：6.25mm， 谷の径：4.45mm，ねじ山のピッチ：2.82mm，ねじ先の形状：切り刃先 材質：SWRCH22A（JIS G 3507）相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C（0.18～0.23%），Si（0.10%以下），Mn（0.70～1.00%） P（0.030%以下），S（0.035%以下），Al（0.02%以上） 表面処理：電気亜鉛めっき及びセラミックコーティング アンカーボルト：M16六角ボルト，材質：SS400（JIS G 3101） 表面処理：Ep-Fe/Zn 5/CM2 C（JIS H 8610及びJIS H 8625）</p> <p>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種：S-P-F，区分：甲種，等級：2級，寸法形式：204</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修/国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行/社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	CHD1520-24	0	26.4	5.3	43.7	24.8	49.8
		1	29.0	4.6	45.2	25.7	63.0
		2	24.9	5.1	40.3	20.8	48.8
		3	26.0	5.1	42.3	19.4	51.0
		4	25.6	4.3	43.3	23.4	59.5
		5	28.1	5.0	46.7	27.9	56.2
		6	23.3	3.9	39.5	16.5	59.7
	平均		26.2	4.7	42.9	22.3	56.4
標準偏差 s		2.09	0.49	2.78	4.21	5.50	
5%下限値		21.3	-	36.4	-	-	
基準値		基準許容応力 14.2		基準終局耐力 36.4		基準剛性 56.4	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参照：表-2（2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況），図-4（荷重-変位包絡線の比較） 図-5（荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル），写真-1～写真-6（破壊状況）							
試験期間	平成17年11月 9日 ～ 10日						
担当者	構造グループ 試験監督者 橋 本 敏 男 試験責任者 高 橋 大 祐 試験実施者 守 屋 嘉 晃						
試験場所	中央試験所						